



地域医療の現場から

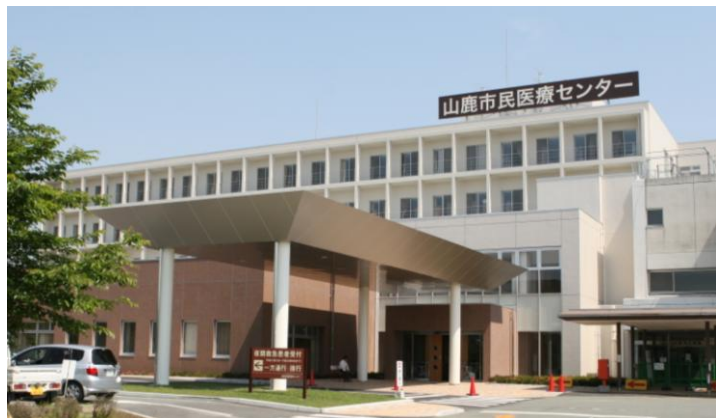
地域住民から求められる 中核病院としての役割

山鹿市民医療センター

地域医療部 地域医療連携室 副看護師長 佐藤明美

病院の概要

- 設立年月：昭和23年8月
- 許可病床数：201床（感染症4床）
- 入院基本料：7対1
- 職員数：239人
（再掲）医師22人、看護師170人
（平成26年4月1日現在）



山鹿市が目指す将来都市像

「まほろば創世・人輝く温もりの都市やまが」

山鹿市は、熊本県の北部に位置し、市の北部から北東部にかけて福岡県と接しており、市の東端部ではわずかに大分県と接しています。中央部よりやや南寄りにある中心市街地から東部（旧菊鹿町）にかけては盆地となっています。市北部から北東部の県境付近は九州山地の一角を占めており、北部（旧鹿北町）の福岡県との県境には姫御前岳（596m）、北東部（旧菊鹿町）の福岡県・大分県との県境付近には国見山（1018m）、八方ヶ岳（1052m）といった山々がそびえ、河川としては、菊池川が中心部を流れており、風光明媚な自然があふれています。山鹿温泉や山鹿灯籠まつりで全国的に知られており、主産業は農業です。

平成17年1月に1市4町が合併し、新・山鹿市となりました。多分にもれず、山鹿市も少子高齢化社会が到来し、平成24年4月1日現在の高齢化率は30.7%と全国や熊本県の平均を上回り、特に農山村部では50%を超えるなど、地域での暮らしの存続そのものが心配される状況も見られています。

山鹿市は、平成27年度（2015年）を目標年次とした、総合的・計画的な将来都市像として「まほろば創世・人輝く温もりの都市やまが」を掲げています。

「まほろば創世」には、豊かな自然と歴史的資源を生かし、だれもが住みやすく、美しく、素晴らしい「ふるさと」をつくり上げたいとの思いが込められています。

「人輝く都市」は、市民一人ひとりが自立し生き生きとした人生を過ごすとともに、行政、市民、団体等が、それぞれの役割を果たし、個性と活力に満ちた「協働」のまちづくりを進めることを表現しています。

「温もりの都市」は、伝統を大切にしながら、お互いを思いやる心の温もりと、恵まれた自然環境や産業の活性化によって、やさしさに満ちた都市の姿を現しています。

2014年度診療報酬改定と地域連携

山鹿市民医療センターは、市民に親しまれ、開かれ、信頼される病院を目指し、地域の中核病院としての役割を認識し機能の強化充実に努めております。平成21年に地域医療支援病院の認定を受け鹿本医師会の先生方や施設関係者の方々との医療連携を努めさせていただいております。入院患者層は後期高齢者が全入院患者数の68%を占めており、急性期治療が終了しても、基礎疾患に合併症や認知症があり、在宅医療へ移行することが困難な患者さまが多数いらっしゃいます。

2014年度診療報酬改定が行なわれ、医療提供体制改革の方向性は、病床の徹底的な機能分化と在宅医療の充実強化であり、団塊世代が後期高齢者となる2025年の医療・介護のあるべき姿を目指した社会保障・税一体改革のロードマップに沿った改定となりました。急性期医療の継続には、平均在院日数の短縮と、在宅復帰率75%以上のクリア目標が課せられ、医療機関にも、患者さまにも厳しい改定となりました。高齢者が安心して在宅で暮らせるためには、緊急往診や見取りの充実が重要であり、地域完結型医療・福祉の推進が求められます。これは、「ずっとこの町で地域で暮らしたい」を実現すべく、行政機関、在宅医療機関、在宅介護サービス事業所などとの緊密な連携サービスを構築し、前方支援と後方支援を一体的に取り組める体制を整備し、当医療センターも地域の医療機関との連携を構築し、地域の実情に応じた地域包括医療・ケアの機能分化と在宅医療の一端を担っていきたいと考えております。

入院でも在宅でも患者さまが安心して過ごせるように

山鹿市民医療センターの取り組みとして、平成24年4月に全人的苦痛（身体的痛み・社会的痛み・精神的痛み・スピリチュアルな痛み）の緩和を目的とした緩和ケア病棟を開設いたしました。現在、3人に1人ががんに罹患し、がんに罹患した2人に1人が死亡する時代であり、悪性腫瘍を抱えながら不安や痛みで悩まれる患者さまにとっていつでも相談できる窓口として地域医療連携室にがん相談支援センターを配置し、切れ目の無いシームレスケアの提供につながるよう支援を行なっております。入院病棟は、13室全て個室対応に作られており、「一人ひとりの『ありのまま』を大切にします」をモットーに、明るく家庭的な病棟で穏やかな入院生活が送られますように心がけております。

地域完結型医療の一端として、平成25年4月より訪問看護室の併設を行い、悪性疾患に罹患し在宅療養をされている患者さまや、不安を抱えて退院される患者さまのお力になれるように体制作りを行っています。平成25年度の訪問件数は836件、在宅見取りは2件でした。

今後の課題として、在宅移行される患者さまへの安心・安全で満足いく退院支援を行うためのシステム構築と在宅資源の掘り起こしや、地域医療ネットワーク作りが重要と考えております。

そして、地域住民の皆さまが住み慣れた土地で安心して生活できるために、山鹿市民医療センターに求められる医療の質の向上に努めていきたいと考えております。



山鹿温泉「さくら湯」



山鹿灯籠まつりのハイライト「千人灯籠踊り」